



白内障の話

皆

さんが、眼科で耳にする機会が多い病名の一つに、白内障があるとされています。かすんで見づらい・ぼやける・まぶしいといった症状がでるので、視力低下で眼科を受診される方にこの診断がつく方が多いのも確かです。

白内障は、虹彩（茶目）のすぐ後ろにある水晶体に濁りが生じるものです。カメラに例えると、レンズがだんだん曇りガラスのようになってくる状態です。ただ、これは程度の差こそあれ誰にでも起こるもので、中にはある種の薬や病気に伴うものもありますが、ほとんどの方の場合には老化現象の一種です。人により、濁りの出ている位置や左右差があり自覚症状に個人差が出ます。



国保成東病院 眼科
かまち ゆみこ
浦池 由美子 医師

白

内障の治療は手術です。少しでも進行を抑えるためのお薬はありますが、今ある濁りを消したり、完全に進行を抑えることはできません。手術では、水晶体の濁りを除去し、その部分へ眼内レンズを挿入するのが一般的な方法です。局所麻酔で行うものなので、全身麻酔と比べて体への負担は軽くなります。近年主流の小切開手術は、以前と比べて回復も早

く、入院期間の短縮や日帰り手術、術後早期からの仕事への復帰も可能です。しかし、切開して人工物を体内に入れておくことには変わりないため、感染症などの合併症を防ぐためにも、点眼や日常生活の注意事項は必ず病院からの指示に従って守るようにしてください。合併症によっては、最悪の場合、急激に進行して失明することもあります。

手術をする時期については、確定的な基準はありません。水晶体はピント合わせの機能がある場所なので、白内障手術でこれをとるということは、調節力がなくなることを意味します。どうせ濁るのなら、早くから

術

とつてしまえばよいのではと、思われる方もいるかも知れませんが、眼内レンズも水晶体と完全に同じ機能を有するものはまだないため、日常生活での不自由さや合併疾患などを含めて、担当医と相談されると良いと思います。

ズも最近では徐々に使われてきていますが、まだ術後結果にばらつきや個人差があるようです。

眼科の病気のなかでもかなりポピュラーな部類に入る白内障は、高齢化社会ではこれからも診断される機会が増えると考えられます。ただ、みえづらい・かすむという症状の中には、糖尿病網膜症や網膜剥離など他の疾患が隠れていることもあります。白内障かなと自己判断せずに、必ず眼科を受診してご相談することをおすすめします。

問合せ 国保成東病院

地域医療連携室

☎(82)2521

シリーズ
No.10

地域医療Q&A

市民の皆さんから地域医療についてご質問いただいたことについて、シリーズでお知らせしています。地域医療の一環として、広く救急医療に関するご質問も取り扱っていきます。

【Q】 男の子は、よく鼻血を出すと聞いたことがあるのですが、どのように対処したらよいのでしょうか。

【A】 鼻血が出たら、次の処置を試してみてください。

1. 鼻血を飲み込まないように、椅子等に座らせ、下を向かせましょう。
2. 鼻の中に何もいれずに、鼻翼全体をできる限り深くつまみ、鼻中隔を圧迫止血します。
3. 鼻呼吸ができない状態で、約15分持続的に圧迫します。

この処置をしてみて、鼻血が止まったら、しばらくの間、座った姿勢のままうつむき加減で静かにしてください。

もし、鼻血が止まらなかったらかかりつけの医療機関を受診してください。

やってはいけないこと!

- ・上を向いて横にさせない。
- ・首の後ろをたたかない。
- ・鼻の中にティッシュペーパーを入れない。
- ・鼻を強くかまない。
- ・鼻をいじらない。

問合せ

健康支援課保健予防係

☎0479(80)8383